

議題：大田区立道塚小学校 第 3 回学校運営協議会

日時：2023 年 8 月 30 日（水曜） 15:00-16:35

場所：道塚小学校 2 階 家庭科室

出席：敬称略

（委員）

河合会長、加藤委員、岩井委員、花島委員

鶴岡委員、多田委員、瀬尾委員、梨本委員、野崎委員

安田委員、宮城委員、上田委員、細川委員（記）

（学校）

大場校長、先生方

（ゲスト）

カムカム新蒲田 五十嵐 副所長

多摩川図書館 高橋 館長

卒業生 安田さん

教育地域力推進コーディネータ 野村さん、山本さん、和光さん

議事内容：

◆会長挨拶

→充実した夏休みを過ごされたことと思います

→夏休み期間中 CS として、道塚自治会はラジオ体操、盆踊りなど、スクールサポート道塚では、夏のワクワクするスクールなどを実施した

→9月になり学校がはじまる、子ども達のためになにができるかを考えていく

◆校長挨拶

→学校運営協議会の開催について去年の先生方の要望から、今回8月は15時開催とし熟議だけとした

→協議会委員の皆さんとしっかり話あっていただきたい

→今回、卒業生の安田さんが参加していただいた。新型コロナ禍で卒業し3年、高校生となった

→安田さんからみてどんな小学校だったら良かったか意見をお願いしている

→かまにし 17 第 87 号に道塚小学校の取組を掲載していただいた、地域に広めていただければと思います。

◆カムカム新蒲田 副所長 五十嵐さん

→カムカム新蒲田は2022年にリニューアルオープンした

→施設オープンの時に、道塚小の先生方が見学に来てくれた

→その時、地域の中で何が提供できるか大場校長と話をした

→3年生はカムカム新蒲田をどうやって地域に広めるかを考えてくれた

→施設としてなにができるか、居場所作りとかできることを進めてきた

→子どもたちはキャラクターやポスターを発案してくれた

→キャラクターを缶バッチにして配るやポスターを施設の廊下に展示している

→活動を通して児童に加えて地域とも関わっていく

◆多摩川図書館 館長 高橋さん

→学校図書館の支援や本の貸し出しで学校を支援している、どんな支援がもっとできるか？

- ワクワクするスクールで図書館の調べ方の授業などもやっている
- 今年度、開館 40 周年であり道塚小の 2 年生がおすすめの本のポップ作成、展示を行っている
- 学校と相互に無理ない範囲で連携していければよいと考えている

◆高校生 安田さん

- お話をする機会をいただいております。
  - 私の考える「小学校にもとめること」についてプレゼンを使ってお話しします。
    - 「学力」について
      - 学力の底上げを進めている。一方、学力のうへの層はほっとかれていますのではないかと（浮きこぼれ）
      - 不登校は増加傾向にある、理由には試験が嫌い、ベルがあわない等いろいろあるが一定数いる
      - 「昔の平等」があわなくなっているのではないかと？
      - 一斉授業を見直し、個々に応じた授業が必要ではないかと？
      - 一人一台タブレットを持っているなら、地域の学校全体で自分にあった授業レベルを受けられるとかが
  - 学歴=年収 という時代ではなくなっている
    - 小学校で多種多様な職業にふれることも大事と思う
  - 身近にできる改革案として
    - 図書室の蔵書として専門書（経済、コンピュータ等）などバリエーションを増やす
    - 興味をもち専門書を読んでいる児童もいる
    - 世の中は多様化してきている、学校もついて行って欲しい
- (5,6 年生時の担任から)
- 安田さんは当時から「自分の考えを伝えたい」など自分をもっていた
  - 3 年間をへて成長を感じれてうれしいです

◆教育地域力推進コーディネータから

- 道塚小 CS は、学校と地域の連携として楽しみにしている
- (大場校長から)
- CS モデル校として、モデル、活動事例として出していく

(報告・協議事項)

◆熟議として「社会に開かれた教育課程の実現

- ～子ども、教員、保護者、地域の幸せ 働き方改革の中で～
- について、委員、先生、ゲストの方々と話し合い意見をもらう
- 資料について、以下を提示
  - (ア) 学校がウソくさい (校長ならできることがある、先生はなにをするか)
  - (イ) 生成 AI の活用
  - (ウ) 大田区はなにをしようとしているか、池上会館で自習教室をやった、SDGs モデル都市、新教科
  - (エ) ウェルビーイング こういう学校をつくったらよくなった
    - 足立区、水曜日午前授業にした、港区、オンラインが始まった
  - (オ) 夢見る校長先生 宿題がゼロ、通知表を廃止、校則をゼロ
  - (カ) 理不尽な学級ルールへの対処 親の理解
- グループ討議を行い、発表する (2 回実施)
- 以下のカテゴリでグループとなり熟議・発表 (1 回目、2 回目) を行う

- ①地域連携
- ②芸術活動・ICT
- ③行事の簡素化
- ④支えたい子ども・親
- ⑤学校環境
- ⑥未来の学校

◆熟議1回目 「働き方改革の中で学校・地域が楽になることで何ができるか」

→カムカム新蒲田について話あった

- 地域、保護者、様々なかかわりがあり今後も広めていきたい
- ワクワクする夏のスクールでの利用など、いろいろな案がでた
- 学校が楽になることも考えていきたい

→安田さんの話から子ども達が夢を持つ、本も大事、図書室に専門的な本をおくなど

- 三歳で難しい本を読む子はいる、興味をもつことを大事にしたい
- 夢を持つ、将来の夢は、職業を夢にこだわらないことがよい
- 職業に限定すると、逆に子どもの夢をこわすこともある

→P T Aをボランティア化した、今年は1割ぐらいの保護者が関わってくれている

- 人数を増やしていけないと思う、父親にも関わってもらいたい
- 先生方に関わってもらえると子ども達は喜ぶ。が、どうか
- 今年度の運動会は数年ぶりに午後までやった

→よかったと思う、卒業式で子ども達がやりたいことをやるのもよいかと思う

→支援が必要な子ども親に、外国籍があり言葉・文化の違いがある

- また、「働く親御さん」ところの支援も必要
- 先生だけでは難しく地域と連携できればよい、民生委員との連携など
- 家庭環境・しつけについて、学校では学業を見る、家庭はしつけをしっかりとみる、
- 役割をはっきりさせる、子どもの成長につながる
- 「夢見る学校の話」記事がある、あってもよいのではないかと思う

→学校環境は、子どもにとってプラスになる環境であれば良い

- 基準が難しいと言われるが、暑さ対策、残菜指導等、だれかの迷惑にならなければよいのではないか
- 先生、保護者、地域で共有できていれば問題は起きない
- ポスターや児童に配布するちらし等本当に必要なものだけに減らす。
- 貼ったり・配ったり、する時間を減らすことができる
- 教育課程にないものは止めることで、先生方の負担を減らすことができる
- 夏期の水泳について学校単位は止めて、区でまとめてやるなどで学校負担を改善できる

→学校・授業について、オーストラリアの学校のICTは進んでいた

- 全てタブレット化している、紙とのバランスはどうかと考える
- 紙のアドバンテージはあると思う

→安田さんの話のように道塚小は多国化・多様性の激しい地域であり対応は必要

→個々に応じて分ける必要もあるが、混ざっているからできるものもあるのではないか

→オーストラリアは指定の教科書が無く先生の裁量や異動も指定が無く何年もいる人もいる

→一方、オーストラリアの貧富の差は広がっているという面がある

→学校図書をデジタル化、地域の図書館と連携するなどはできると思う

→個人に応じた最適な学びは必要と考える

→安田さんの話からできない子だけでなくできる子への配慮は必要と思う

→先生・学校は、たくさん引き出しを持つことが大事である

→先生がなぜその問題をだしたか、考える・疑問をもつ力が子どもには必要

→生成 AI を児童がつかうことについて、「思考力の低下」などが考えられる

→学校と保護者の共通理解が必要と考える

→生成 AI が当たり前に使いきなしていく時代になっていく

→結果が本当にあっているか見極める力、調べる力、選べる力が必要になってくる

→ICT として一人 1 台配布されたが、PC の技能ではなく、使いこなしが重要

#### ◆熟議 2 回目 「その中でもすぐできる・できそうなことは何か」

→地域の力・能力を活用する

→スクサポコーディネータと先生との話し合いを、5 月と 2 学期はじめぐらいに調整すればよい

→道塚ホールを地域に開放することで、地域・自治会の方がくる

→地域・自治会の大人との関わり、児童の見守りが期待できる

→行事に、中学生や高校生などの卒業生にきてもらう

→9/23 スポーツフェスタがあるので参加してもらう

→授業に置いて行かれる子どもがいる、ところに誰かが入る

→地域・中学生・高校生にはいってもらうのが良い

(大場校長)

→今夏の補習教室、高校生に入ってもらったら、宿題の提出率があがった

→親父の会の父親は忙しい、おじいちゃんの会があっても良いとの声があった

→紙のやりとりをなくす、やっしまえば慣れる

→上からくる書類が多い、見ない・返事がこないなど不要なものがある

→保護者向けの紙をなくすには、共通認識が必要になる

→まずは学校内・先生同士から始めることはできる

→メール等で連絡し、必要な人自身が印刷するなど

→仕事している親が多い、親と先生がつながっていれば問題も軽減できる

→連絡帳でなく、子どもに知られずに連絡する方法が必要

→学校施設利用する人は、学校教育に寄与する、頼む・頼まれる中で win-win の関係を作る

→子どもたち自身に防災・減災を身につけさせる

→役所で中高生参加の防災訓練の仕組みを作り

→小学校はそこに子どもたちを参加させるようにすると学習が深まり実践的になると考える

→学校施設をマネジメントする組織として外部委託してもよいのではないか？

→プール・体育館などの運営をどこかにマネジメント会社に委託する

→先生方の働き方改革として、月一の定時（16:40）退庁日をつくる

→東京都では定時退庁日を行っている

→校長が学校運営協議会委員に定時退庁日を宣言すれば

→委員が、職員室の電気が消えているかなど見ている

→定時退庁日がきまると先生方も前後に業務を振り分けるなど業務管理するようになる

→一方、残業時間は値する業務のためであり、話かけることは時間をつぶしていることを認識する

以上